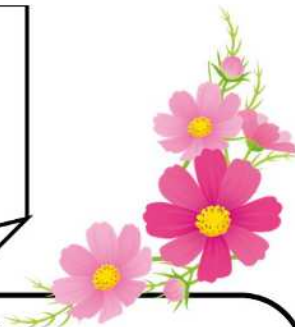


農業普及だより

No. 380 令和5年9月発行
知多農林水産事務所農業改良普及課
半田市出口町1-36 (0569)21-8111



令和5年度 新規就農者激励会を開催！

知多新規就農支援協議会（知多農林水産事務所、あいち知多農業協同組合、10市町で組織）は、7月27日（木）にJAあいち知多総合本部ビルで「新規就農者激励会」を開催し、令和4年度に就農した新規就農者のうち7名が出席しました。新規就農者が抱負を述べた後、知多農林水産事務所次長からは就農激励状が、JAあいち知多代表理事組合長からは記念品が贈られ、来賓の農業経営士協会知多支部長からは激励の言葉をいただきました。

その後、新規就農者へ共済や保険等の制度、家族経営協定や4Hクラブなどの紹介を行い、新規就農者と関係機関の担当職員が地域ごと

に分かれて情報交換を行いました。質問や相談、助言などで盛り上がり、終了時間になっても話は尽きないほどでした。



新規就農者へ
激励状と記念品の贈呈

若手女性農業者の研修会を開催！

6月20日に、若手女性農業者を対象として「コツを知れば変わる！「売れる」につながる動画って？」と題してSNSマーケティングについての研修会を開催しました。

講師の(株)PAQLAの小塚未波氏は元テレビ局勤務で、現在は企業のPR動画制作、コンサルティングをされています。参加者はコンテンツ作成や動画作成の基礎などについて、販売につなげる方法など様々なアイデアを得ました。また、実際の自分の生産物を撮影しての動画編集実習も行い、研修会後は講師に個別相談する様子も見られました。

今年度はテーマを変えてあと2回の研修会を予定しています。参加を希望される方は、普及課へお知らせください。



熱心に受講する若手女性農業者

内藤克彦氏が高橋養鶏賞を受賞！

半田市の採卵鶏農家である内藤克彦氏が、第48回高橋養鶏賞(経営部門)を受賞しました。

高橋養鶏賞は、元愛知県職員で、養鶏技術の普及に生涯を捧げた高橋廣治氏の功績を記念して設立された賞で、愛知県の養鶏の向上発展に寄与し、顕著な業績をあげた者が表彰されます。

内藤氏は、①直売を中心とした、地域に根差した経営、②地域の養鶏農家や稲作農家と連携した名古屋コーチン卵の生産、飼料用米の利用及び堆肥還元、③知多養鶏農協や知多養鶏二十日会での組織活動を通じた卵の消費拡大、養鶏農家の技術向上や後継者育成、④半田市の小学校における食育活動の4項目での功績が評価され、受賞に至りました。



受賞者（左から2人目が内藤氏）

お知らせ



みどり認定について



「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」が令和4年に制定され、基本方針が公表されました。これに基づき、令和5年7月31日に「愛知県農業の環境負荷低減事業活動実施計画認定要領」が策定されました。

農林漁業者は環境負荷の低減に取り組む5年間の事業計画を作成し、愛知県知事に申請することができます。申請の事業活動内容は「化学肥料・化学農薬の使用削減」「温室効果ガスの排出削減」「農業用プラスチックの排出削減」などです。この環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）計画作成の相談と申請につきましては、農業改良普及課までお問い合わせください。

詳細につきましては、農業経営課のホームページ内にある「環境負荷低減事業活動実施計画の認定（みどり認定）について」を参照してください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/midori-nintei.html>

愛知県立農業大学校 令和6年度学生募集

愛知県立農業大学校は、農業後継者や農業の担い手を育成する2年間の専修学校です。

本校の農業用施設面積は全国一を誇っており、全寮制による実践的なカリキュラムで農業を学ぶことができます。Uターン就農を考えている後継者の入学も歓迎します。

- ・農学科：定員100名
 - ・専攻：鉢物・緑花木、切花、作物、果樹、露地野菜、施設野菜、酪農、養豚・養鶏
- 入試日程等の詳しい情報は、農大HPから入手できます。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

問合先：愛知県立農業大学校教育部学務科

電話：0564-51-1602



農作業事故の防止に向けて

農作業には農業機械の活用が不可欠ですが、一歩間違えれば重大事故に繋がる可能性があります。農作業事故は決して他人事ではないことを今一度念頭に置いて事故防止に努めてください。

過去の農作業事故発生事例を見ると、60歳以上が全体の7割を占めています。加齢に伴う注意力や体力の低下は避けられないので、無理のない作業計画を立てつつ、危険箇所と作業上の注意点について、今一度確認を行うようにしてください。

事故原因としては転倒や転落による事故が多く発生しています。本年度は管内でトラクターの下敷きになって死亡するという重大事故がありました。安全装備（安全フレーム、シートベルト等）を活用するとともに、斜面や狭い場所での作業の際は特に気をつけていただきますよう、改めてお願いいたします。

